

多様性のなかの 「学びと自治」

松田武雄（松本大学）

地域のなかの「多様性」

- 経験を通じて知る地域のなかの多様性
 - 年齢、男女、職業、行動様式、国籍、障害の有無などの多様性
 - 価値観の多様性（町会、地域に対する考え方、関わり方など）
 - 地域・町会での人間関係の多様性
 - 学校のなかの多様性（クラスの中に地域の縮図がある）
 - 地域文化の多様性 など。
- 地域のなかにある多様性に気づき、均質な集団に籠らず多様性に関わる。
- **地域で異質な人々と関わる体験と行動**が多様性を理解することにつながる。

未来をつくる力は多様性のなかにある

(上野千鶴子、朝日新聞、2022.元日)

- ・現代は予測できないことが次々と起き、お手本はどこにもありません。正解のない世界のなかで、**自ら課題を見つけ、未来を切り開いていく。**
- ・なるべく**異質なものと触れる機会**を持つことが、大事だと思います。例えば外国で異文化に触れたり、高齢者や障がい者と日常的につきあったりする。そのような体験のなかで自然と湧き立つ違和感が、その人の問いにつながるのではないのでしょうか。
- ・多様性がなぜ必要なのかといえば、**新しい価値は異なるものの摩擦から生まれる**からです。情報工学では、情報とはノイズが転化したものだと言われています。ノイズが発生しない同質的な組織からは、価値ある情報も発生しません。

多様性＝ダイバーシティ (Diversity) とは

- ・ある事柄に含まれる多くの異なったタイプの物や人々がいる状態。
- ・あることについて多くの異なる考え方や意見があること。

(ケンブリッジ英語辞典)

2つの多様性

・表層的多様性

性別、年齢、国籍、人種、性的指向・性自認、障害の有無など。

・深層的多様性

価値観、宗教、経験、嗜好、第一言語、受けてきた教育、コミュニケーションの取り方など。

個の多様性と関係性（人とのつながり方）の多様性

ダイバーシティは経営学に由来する

- 多様な人材活用が社会を活性化する
人材の多様性を活用することで企業組織の経済効率を高める。
- **ダイバーシティ・マネジメント**
組織内の人材の多様性を活用し、イノベーション（革新）を起こす。
女性、高度外国人、LGBT/SOGI（性的指向・性自認）
- **ダイバーシティ・マーケティング**
ダイバーシティをビジネスチャンスと捉え、それをブランド化しながら商品化していく。
LGBTマーケティングに取り組む企業の多くが、社内での企業倫理の確立と社外でのLGBT/SOGIの人権問題にも取り組んでいる。

ユネスコ/文化的多様性に関する世界宣言 第1条(2001年11月)

第1条 文化的多様性：人類共通の遺産（一部略）

時代、地域によって文化のとり形態は様々である。様々な集団や個々のアイデンティティーは唯一無比のものであり、また多元主義的である。このことに、**文化的多様性**が示されている。

文化的多様性は、交流、革新、創造の源として、人類に必要なものである。

文化的多様性は人類共通の遺産であり、現在及び将来の世代のためにその重要性が認識されるべきである。

「多様性」が見えなくするもの

(『多様性との対話』 青弓社より)

- ・肯定的な響きのある「多様性」の理念が掲げられる一方で、不平等や差別をなくす取り組みが後退している。
- ・多様性は組織の肯定的で明るいイメージを提供するが、それは組織内部の**不平等の存在を隠してしまう**。
- ・様々な差異とそれをめぐる差別・不平等が日本社会に存在してきたことが見失われていないだろうか。

ヘイトスピーチ、名古屋入管でのスリランカ女性の死など

- ・多文化共生の論理には従来から批判があった。
異文化理解・コミュニケーションに偏重する傾向があった。
定住外国人の権利を保障する要素が希薄である。

「多様性」を学ぶ

- ・自分と異なる他者に対する無知や無接触を放置してしまうと、無意識のあいだに差別的な考えを抱く可能性がある。
- ・そうならないためには、周囲に多様な人々が混在している状況の中で、どれだけ**異なる他者と時間を過ごしたか**が大事になる。
- ・人は互いに異なるという前提を共有することにより、互いに通じ合うことができる。
- ・**異なる文化に対する好奇心**を育むような地域の環境をつくる。

(『東京の多様性』 日本経済新聞出版より)

- ・学校や公民館での学習が大事であり、特に多様性を実感する共同体験こそが「多様性」の大事さを体得する

学びの形の多様性ー多様性を活かす学び

- 異なる文化に由来する人々とアイデアが出会い衝突し合流するときに学習と成長・発達が進む（クラムシ）。
 - 地域行事への参加とその準備のための共同活動
 - 町会の会議などで異なる意見を持つ人々どうしの対話
 - 多様な諸活動のネットワーク（団体間のつながり）
- バラバラな個人的行為だけでは解決されないジレンマ（八方ふさがり）のなかでこそ、**共同の行為**が新しい活動を作り出す。
- 人々の成長・発達は、個人にとどまらず集団的に進歩する。
 - 成長・発達は垂直的に超えていくだけでなく水平的に横切っていく。
- 学習の形態が多様に組み合わせたり、その間にたえず交流がある学び。
 - 系統的な学習、グループ学習、体験学習、調査学習、討論。

拡張的な学習(ユーリア・エンゲストローム)

- 学習活動によって生み出される新しい活動には二つの側面がある。
 - *与えられた新しい側面
 - *創造された新しい側面
- 新しい行為が豊かな結果をもたらし、新しい活動が拡張する。
- 活動においては、さまざまなグループや人々の声が衝突し補完し合っている。こうした声のすべてが含みこまれ役立てられなければならない。**多様性**だけでなく内部から生まれる**方向性**との統一。

事例：宮部みゆき『ソロモンの偽証』

中学校が舞台、1人の生徒の自殺、殺人現場を見たという告発状。
多様な立場の生徒、大人が対話、討論、学習する学校内裁判を描く。

自治とはなにか

- 自治の三つの側面

個人の自治，集団の自治，地域社会の自治(地方自治)。

- 自治に共通するものは**自律と自己統治の結合**である。

- 個人が他者の統制にしばられずに自分自身の規準を定め，自分の意見が自分の行為を律する余地があるとき，個人の自律ないし自治があるという。自治は，自己の意思が自己の行為を統制する能力，意思を行為に具現する能力を要件とする。（世界大百科事典より）

- 個人の自治と地域社会の自治をつなぐのは集団の自治である。

- 町会を筆頭とする地域団体、サークル・グループ、NPO・ボランティア団体での自治活動が地域における住民自治の基盤となる。

自治意識と地域の住民自治の醸成

- 個人の自治意識の醸成

*生活課題や地域課題の解決に取り組む能動的な活動の中に学びがあり、その学びが個人に自律的な思考をもたらし、自治意識が醸成される。

*他者に依存せず自律的な判断で行為、活動することができる。

- 地域における住民自治の醸成

*一人一人の自治意識とともに、地域社会、団体の中での集団的な自治活動やそこでの相互作用、協働の中で地域の住民自治が育っていく。住民の学びは、集団的な自治活動の中に埋め込まれ、活動を通じて成長していく。

- 地域課題に関する公民館等での学習活動は、このような自治活動を促進する原動力となる。

実践報告より

・寿台ハッピー食堂

- *子どもたちを中心に地域の多様な人たちが参加し、子どもを応援するとともに世代等を越えた交流活動。多様な担い手の参加と連携。
- *外国籍の子ども・親を含めた活動。
- *コロナ禍のもとで活動継続のための工夫。

・なかやま体験フェスタ

- *地域の中の多様な人材や活動の発掘と発信。
- *地域にある多くの史跡や文化財などに注目し発信する。
- *地域活性化事業、カタログ作成等、地域再発見からフェスタへ。

実践報告より

・地域の中の多文化共生の実践

- *海外からの移住者による地域住民としての地域活動。
- *外国人としての特性を活かした多文化共生の実践。
- *多文化共生をテーマにして多様な人々の交流活動。

- ・ いずれの実践も何らかの多様性を活かした活動の工夫をしている。
- ・ 活動を通じて地域の多様性の発掘がなされている。
- ・ 新たな活動の担い手が登場している。

話し合いたいこと

- ・このような活動を通して、その中でどのような学びが行われたのか（集団活動の中での学び）、多様性は学びにどのように生かされたか。
- ・活動を通じて地域の中での新たな出会いはあったか、地域に新しい発見はあったか。
- ・団体活動や町会活動（自治活動）に、何らかの変化は見られるだろうか。

みんなで食べると美味しいね 寿台ハッピー食堂の取り組み



寿台地区町会連合会
ハッピー食堂運営委員会

寿台地域を取り巻く環境

寿台児童館は開館から40年、市営・県営・一般住宅の中にある小さな児童館

少子高齢化が急速に進み、一人暮らしの方も多い

ひとり親家庭、多子家庭、共働き、外国籍...も多い地域

→町会の皆さんが近隣の子どもたちを良く知り、見守り、声かけなどもしてくださっている。

ハッピー食堂のきっかけは 2015年冬

子どもを見守り続ける寿台児童館の職員

「最近の子どもの様子」が気になり..
みんなで話し合う中で
「子ども食堂」ができないか? と提案

地域と児童館との協力体制

臨時運営委員会の開催

子どもは地域の宝
「地域全体で子どもたちの未来を考え育てよう!!」
食堂開催が決定



様々な課題と解決方法

貧困のレッテルを張られる → 大人も子どもも誰でも参加できる

アレルギー対策→初めて参加するときに全員提出

場所→調理設備の整った地域のふれあいセンター

食事担当→調理士免許を持つ地域ボランティアさんが中心

予算→子どもは無料、おとなは食材費100円以上のカンパ

食材調達→フードドライブ、公設市場、企業からの寄付

大人も子どもも全員参加。みんなが笑顔になれる居場所

「ハッピー食堂」と決定

「食べさせてあげる」→子どもたちが「生きる力」を学ぶ活動に

開催までの流れ

2016年
2月17日
臨時運営
委員会

申し込み
スタート
全戸配布

広報活動
市役所、教育
委員会
マスコミ各社
町会、学校

食材集め
公設市場
企業
人脈、地域



子どもたちはフード
ロスを学んだり、招
待状、カレーゲーム、
エプロン作りなどし
て当日を迎えました。



ハッピー食堂の特徴

- ・子どもたちの「生きる力」「やりたい」を応援するプログラム
 - 調理実習
 - 学習支援、遊び支援
 - 伝統、歴史、文化体験
 - フードロスやSDGs
- ・高齢者、高校生ボランティアとの交流
 - 幅広い年代の皆さんと一緒に食事、遊び、学ぶことで相互交流
- ・様々な応援団
 - 寿台児童館、高齢者クラブ、食事ボランティア、民生委員、公民館の皆さん、市の職員の皆さん、公設市場、高校生ボランティア、フードバンク信州、ワークス etc.

2016年度

***7回開催 のべ342人 参加**



2017年度

*69回開催 のべ900人参加

ハッピー食堂(年4回)、児童館主催で「おむすびくらぶ」(高学年、食事つき学習支援)、「土曜おむすびくらぶ」(調理・生活体験)、「わくわくハッピーワールド」を開催。***ハッピーワールドでは、韓国料理店の方や外国籍の保護者による料理教室を開催**

***松本市の交付金、社会連帯基金を活用**



2018年度

*30回開催 子ども502人(のべ948人)参加

松本市の子どもの居場所作り事業交付金を利用して、生活体験(アレンジ、しめ縄、伝承文化など)や学習支援を充実。



2019年度からは地域主催に

**運営を町会連合会に移行させる準備期間として
主催を連合町内会にしてスタート**

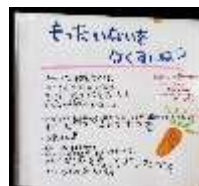
「ハッピー食堂」の意義を改めて考える

- ・子どもたちの居場所であり、生きていく力を育む大切な場所
- ・遊び、体験を通して自己肯定感を持つことができる
- ・貧困だけでなく、いろいろな生きづらさを抱える子どもたちがいる
- ・メイン運営は「町会」、「児童館」はできる限りの協力をする
- ・運営資金として、フードドライブと松本市の子どもの居場所作り事業交付金を利用

2019年

*子ども518人(のべ881人)参加

- ・高校生ボランティアの参加
- ・未就学児と保護者の参加
- ・土曜わくわくクッキング「親子料理教室」
- ・わくわくお話クッキングでフードロスを学びながら成長



2020年からの取り組み

*「ハッピー食堂」の在り方を地域・児童館で会議

携わる職員・役員が変わっても存続できる体制作り

地域は主催者として、運営管理(交付金)、社会的資源の提供

児童館はコーディネーターとして地域と子どもたちをつなぐ役割をする

コロナ禍への対応⇒ 3密を避け、回数や人数を抑えながらお弁当などで対応。

2020年

*子ども290人(のべ425人)参加

・コロナの流行により中止、延期が相次ぐ

・休校や自粛を通し、改めて子どもの居場所の大切さを実感

→感染状況に合わせた開催



2021年

- ・コロナ2年目ー現在までに22回開催
- ・黙食、感染対策をしながら開催
- ・感染レベルを見ながら日程・メニュー変更などで対応



「ハッピー食堂」の効果と課題

- 児童館と地域との連携によるモデルケース
- フードロスをなくす活動の推進(SDGs)
みんなで食べたら食べられた!
- 子どもだけでなく「みんな」の居場所
- 目に見えない「生きづらさ」への寄り添い

※担い手の育成
※コロナ禍での対応
※継続性
※運営資金

これからの課題

子どもを「真ん中」に置いて

地域が手を取り合い
子どもの「やりたい」を応援すれば

地域の可能性は無限に広がります

2021 なかやま体験フェスタ

松本市中山公民館
館長 鈴木 幹夫

はじめに

中山地区の概況について

- ・人口：3,195名、世帯数：1,360世帯（R4.1.1現在）
- ・高齢化率（65歳以上人口）：41.0%（R3.12.1時点）
※松本市内35地区中、奈川、入山辺、安曇、四賀、寿台の各地区に次いで6番目の高さ。
- ・少子化：地区内唯一の公立小学校である中山小学校の全校児童数は100名（R3年度現在）

また、地区内は市街化調整区域が多く含まれていることで、新規の宅地造成が行えず、市内の他地区あるいは市外、県外からの移住者流入は多くは望めない。

1 事業開始の経緯について

こうした状況下であり、地区の課題として①少子化、②高齢化、③人口減少の3点が挙げられ、課題解決のための目指す方向として、住民が「住み続けたい」、「住んで良かった」と思える、また地区外の住民も「訪ねてみたい」、「住んでみたい」と思える地域づくり（＝『住んで良かったと思える中山づくり』）が必要であるとの方針に至った。



この方針を受け、平成26年9月に「中山地区地域づくり協議会」が発足。

同協議会内に、地域の特性を生かし、和やかで活力ある地域づくりを目指す「地域活性化部会」を設置し、事業を開始した。

2-1 地域活性化部会の事業内容について

(1) 元気づくり事業

地区内の遊休荒廃農地を利用し、加工トマト、エゴマ、花豆を栽培。

地元出身の中学生、高校生、大学生（計4名・R2実績）も参加。

(2) 公民館カフェ

毎週火曜日・金曜日の午後、公民館の講座室（和室）を利用し、住民が気軽に立ち寄れるコミュニケーションの場を提供。現在19名のボランティアスタッフが交代で参加している。

(3) なかやま史跡ウォーキング

令和3年度は11月28日（日）に実施。地区内に数多く点在する史跡を巡るウォーキング企画で、文化財課職員、考古博物館学芸員にガイドを依頼し、昼食は中山そば振興会の手打ちそばを振る舞う。

令和3年度は、地区外29名、地区内1名の計30名が参加した。

等々・・・の事業を行っています。

2-2 地域活性化部会の事業内容について (公民館カフェ、なかやま史跡ウォーキングの様子)



公民館カフェの特別企画として実施している『歌声喫茶』の様子



文化財課職員よりガイドを受ける『なかやま史跡ウォーキング』の様子

2-3 地域活性化部会の事業内容について (元気づくり事業の様子)



加工トマトの栽培には地区の中学生、高校生も参加してくれました。

参加者の皆さんでエゴマを収穫している様子。



花豆をサヤから収穫している様子。

3 なかやまのカatalogづくりについて

これらの事業と並行して、令和元年度には更なる交流人口の増加を目指し、地区外に向けて中山のお店、団体・サークル、特産品、中山地区で活動する人材などを一冊のカatalog『信州・松本中山を紹介するフリーマガジンなかやま』にまとめました。

なお、このカatalog作成には長野県地域発元気づくり支援金を活用しました。



4 カatalog作成から体験フェスタへ発展

カatalog作成を進める中で、中山地区には多くの自然や旧所・名跡があることは知っていたが、これに加えて多くの人材（＝達人）がおり、地域の特性を活かした農業体験や 自然体験、体験型ワークショップを行うことが出来る環境があることに改めて気付かされた。

これを地区外にPRすることで、更なる交流人口の増につながることを期待。



なかやま体験フェスタを企画

5－1 体験フェスタのプログラムについて（1） （未実施につき活動体験のイメージです）

（1） 稲わら細工（正月飾り）

中山公民館で活動するサークル「松本つぐら同好会」の皆さんの力を借り、稲わらから縄をない、正月飾りづくりを体験する。



（2） ツリークライミング

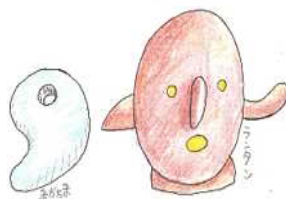
地区の中の公園「喜源治子ども基地」にて、ハーネスやロープなどの機具を使った、本格的な木登りを体験する。



5－2 体験フェスタのプログラムについて（2）

（3） ランタンづくり・勾玉づくり

松本市立考古博物館の協力を得て、ランタンや勾玉づくりを通じ、古代人の暮らしの疑似体験を行う。



（4） 中山太鼓連による和太鼓体験

地区で活躍する「中山太鼓連」の皆さんが講師となり、初心者からの和太鼓体験を行うプログラム

等々・・・ 計10の体験型プログラムと地区の名産品を扱う「なかやま物産展」をそれぞれ企画しました。



6 今後の展望

以上の様に、地区住民や地区関係団体からの協力や支援を取り付けて、企画を進めてきた本フェスタですが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和2年度、3年度ともに開催中止（延期）となっております。

但し、令和4年度以降感染状況が落ち着いてきた際には、また多くの参加が見込まれる子ども達のワクチン接種が進めば、きっとこのイベントも再開できる日が来るかと願っております。

本日は、事例発表者のひとりとしてこの公民館研究集会に臨みましたが、この発表を受け、参加者の皆さんからも、「こうしたらもっと良いイベントになる」だとか「中山地区の活性化には、こういったことを行ってみてはどうか」といったご意見やお知恵をぜひいただきたいです。

**発表を聞いていただき、興味を持った
皆さんは、ぜひ中山地区にお越しください。**

ご清聴ありがとうございました。

テーマ: 未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い

多様性の中の「学びと自治」

第37回公民館研究集会
令和3年度地域づくり市民活動研究集会

私の話の内容

1

自己紹介

2

多様性とインクルージョン

3

活動紹介

4

包括的なコミュニティの構築

1

自己紹介

フィリピンの、ミンダナオ島、ダバオ市生まれ、野村ロセルダです。
現在は中学生と小学生の二人の子のお母さん。仕事はフリーランスESL
教師。松本市のキーパーソンとボランティア。子育てしながら、松本市、
CTN、PTA、地域の活動に積極的です。

2

多様性とインクルージョン

多様性は英語で**ダイバーシティ**といい、性別、性的指向、
宗教的信念、年齢、民族、人種、地理的位置、文化、階級、
身体能力など、個人のさまざまなユニークな特徴を指します。



ダイバーシティとインクルージョン
(多様性と包含)

地域づくりに
重要！！

インクルージョン～ 誰もが社会の構成員として、尊敬され、評価され、受け入れられ、分け隔てなく社会参画できる風土です。それは、人々が帰属意識を感じ、本物の自分になる環境を作り出しています。包括的な環境は、すべての人々の声を聞き、評価し、理解して、ニーズを満たすことができる場所です。

The Four Types of Diversity

1. Internal Diversity (内部の多様性)



民族、年齢、国籍、性的指向、文化的アイデンティティ、ジェンダーアイデンティティ、身体的能力、精神的能力

2. External Diversity (外部の多様性)



個人的な興味教育、外見、市民権、宗教的信念、居住地、家族状況、関係状況、社会経済的地位、人生経験

3. Organizational Diversity (組織の多様性)



職業、職場、役職、雇用状態、組合への所属

4. Worldwide Diversity (世界的な多様性)



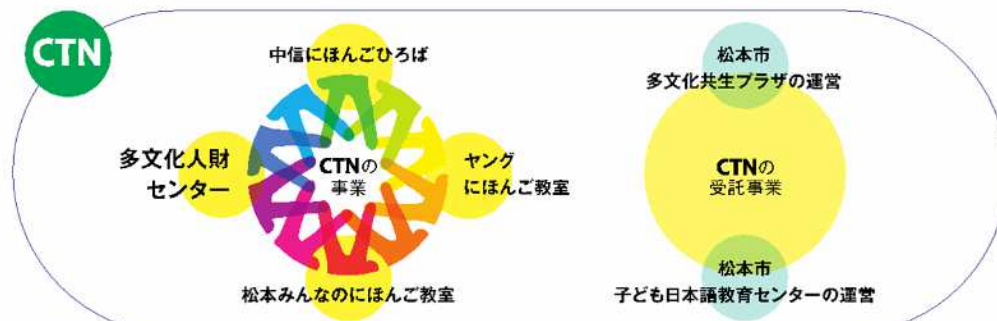
政治的信念、道徳的指針、人生の見方

3

活動紹介

① CTNの活動

NPO 法人 中信多文化共生ネットワーク（CTN）の活動内容



② 参加したことあるコミュニティ活動・体験

1. (公民館) 親子サークル。

- ※お日様会
長男と参加
- ※ペガサス親子サークル
娘と参加。

2. (幼稚園・学校)

- ※テニス部
- ※コーラス部
- ※PTA副会長
- ※地区-PTA役員

③ 現在の活動

1. M-カフェ (多文化共生)

多文化共生をテーマに、日本語や各国のゲーム、歌、ダンス、料理、クラフトなどの文化紹介して交流しています。国を問わず、心の近所さん！

2. 英語で脳活 (松本市民講座)

英語を使って、ダンス、歌、ゲーム、単語覚えなどで脳を動かす。

3. NCEC (Nomizo Children English Club) (地域と提携)

野溝地区に住んでいる子供達の英語クラブ。英語をたのしみながら他国の文化も紹介。

4. ZUMBA GROUP

ダイバーシティとインクルージョンをお祝いする、レベル、年齢や国を問わず、だれでも参加できるZUMBAグループ。

4

包括的なコミュニティの構築

1. 私たちとは異なる人々と一緒に暮らすこと／働くことを学び、それらに耳を傾け、理解することを学ぶべきです。
2. 私たち、コミュニティ内で、すべての人を結びつけるイベントを催す必要があります。コミュニティ内で、前向きな相互作用を奨励すべきです。
3. 人々を意識的に尊重し、評価することを学ぶ必要があります。
4. ダイバーシティとインクルージョンに関する一貫したトレーニングを提供する必要があります。
5. リーダーは多様性と包摂性（ほうせつせい）をモデル化する必要があります。